



ソウエルクラブ会員事業所



**社会福祉法人 ふるさと**  
 所在地：〒851-3502 長崎県西海市西海町川内郷1484  
 理事長：北島淳朗  
 高齢者福祉事業（特別養護老人ホーム、ショートステイ事業、グループホーム、小規模多機能ホーム、サービス付きシニアマンション）・生活困窮者支援事業

社会福祉法人ふるさとの原点は1976年に開設した定員50名の特別養護老人ホーム「ふるさと」にあります。以来、法人の理念でもある「共助共援」を軸に歩みを進めてきました。今回は同法人の先進的な取り組みについてご紹介します。

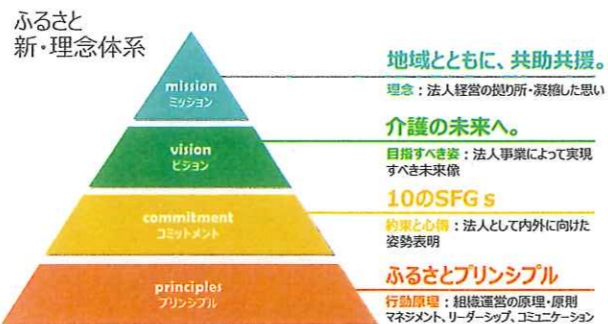
# つなぐ、つながる ソウエルの仲間



全職員が同じ「志」を持てるよう  
理念体系を再構築

法人の理念である「共助共援」には、「地域社会、ご利用者・ご家族と相互理解と支え合いを通して、地域共生社会の実現を目指す」との意味が込められています。しかし、組織が大きくなってくると、全職員が同じ志で仕事に臨むことが難しくなってきます。そこで、当法人では2019年から3年かけて理念体系を再構築しました。法人の「理念」と「目指すべき姿」、さらには内外に向けた法人の姿勢表明として「10のSFGs」(\*)を制定。

- 1 ふるさとに関わるすべての人に幸せ(福祉)を
- 5 新たなテクノロジーを積極的に活用して介護現場の革新を実現する
- 7 いつまでも、心身ともに健康で働き続けることができるサポート体制



その上で、法人が打ち出す目標に対して、各事業所が計画を立て、実践し、目標の達成度合いを数値化し、可視化しています。また、中間管理職やリーダー職を適材適所に配置することにも注力してきました。その結果、各部署の課題や職員の悩みなどが早い段階で分かるようになり、働きやすい職場づくりにもつながっています。

※SDGsにならった「Sustainable FURUSATO Goals」の略で、持続可能な社会と法人を目指す「ふるさと」独自のGOALを指す

つながる  
職員



介護職  
寄能  
莉那さん

- 趣味：お菓子作り
- 勤続年数：7年目

介護の仕事への興味は小学生の頃からありました。理由は、祖父母のことが大好きだったことと、身内に介護士がいて「楽しい?」と尋ねたら、「楽しかよ」との回答だったから。つまり私は小学生の時の夢がかなったということです! 当施設では自立支援介護に力を入れているのですが、胃ろうだった方がお粥を食べられるようになったり、車いすだった方が自力で歩行できるようになったり、うれしそうにされているのを見ると、介護士になってよかったなと心から思いますし、大きなやりがいを感じます。

地域交流の場にもなっている  
法人独自のフォトコンテスト

当法人では2014年度から、法人独自のフォトコンテストを開催しています。コロナ前までは、多数の写真をホールに掲出し、投票制で受賞作品を決めていました。受賞作品には、ささやかながら賞金も出るとあって、とても盛り上がります。投票権は、利用者さん、ご家族の皆さん、職員、さらには敬老会で施設にお見えになる地域の皆さんにもあるため、フォトコンテストが地域交流の場になっていたともいえます。ところが、コロナ禍においては、ご家族や関係者を招いての敬老会が実施できません。それでも、どうにか継続しようと、各職域で出品する1枚を決めてもらい、集まった十数枚の写真を1枚の紙にプリントし、利用者のご家族や地域

2位(同票) 36票  
「女性は生涯美人」



1位 60票

「冬が過ぎて春、みんなに会いたいなあ〜」



の皆さんに送付して、投票していただく形式にしました。なお、賞金はお寿司やケーキなどの購入に使われ、職員と利用者さんで楽しんでます。

写真は利用者さんの人生の記録です。したがって、利用者さんの生き生きとした様子が写真という形で記録されることは、フォトコンテストに関係なく、利用者さんご本人にとっても、ご家族の皆さんにとっても意義深いものだと考えています。

ICTの積極的導入で  
働きやすい職場をつくる

職員が心身ともに健やかに働けるかどうかは、サービスの質にも関わってくる重要なことです。そこで、産業カウンセラーによるカウンセリングや研修などももちろんのこと、職場環境の改善を目的としてICTを積極的に導入しています。例えば、かつては手書きで記入していた体温や血圧などは、測定するだけで数値が各端末に即反映され共有できるようになっています。シフト表も条件を打ち込めば数秒で作成してくれるソフトを入れ、稟議関係も全てネットで承認できるシステムを導入しました。利用者さんのケアにおいても、スマホで歩行の様



子を動画で撮るだけで、歩行を分析し、必要な運動メニューを提案してくれるアプリを活用しています。ICTの導入には一定の初期費用がかかりますが、職員の負担を軽減しながら、介護の質を上げられることを思えば、費用対効果は非常に高いといえます。



活用しているソウエルクラブのサービスや  
法人独自の福利厚生についてお聞かせください

コロナ前は、ソウエルの長崎県事務局企画の料亭での食事プランや演劇鑑賞などが職員の間で人気でした。職員のリフレッシュのためにも、早く復活してほしいですね。法人独自の取り組みとしては、毎月の積立金と法人からの助成金を合わせて、年に1度、1泊で温泉旅行をする職員の旅行クラブ(現在はコロナで休止中)があります。また、「ふるさと会」という職員互助会があり、慶弔見舞金や永年勤続慰労金などが、法人からとは別に支給されます。



※写真はコロナ前に撮影されたものです。